

66 オルセー美術館と日本（2021年6月17日）

クロード・モネ、オーギュスト・ルノワール、ポール・セザンヌ、フィンセント・ファン・ゴッホ、ジャン＝フランソワ・ミレー・・・19世紀のフランスで活躍した画家たちの名前や代表作は、日本でも広く知られています。日本でこれらの画家が描いた作品が来日する展覧会が開催されると、大きな話題となります。19世紀のフランス絵画を数多く所蔵するオルセー美術館は、フランスに来る多くの日本人が一度は訪れたいと願う美術館です。実際、オルセー美術館の入場者を国籍別に見ると、日本人はトップ10*に入っています。

日本でこれほどまでに近代のフランス絵画が人気になったのは、作品が素晴らしいことは当然ですが、これらの作品を日本人に紹介するために努められた方がいたことを忘れてはいけません。オルセー美術館の統括学芸員を務められたカロリーヌ・マチューさんは、1986年に開館したオルセー美術館の開設準備から、美術館の歩みとともに世界各国で多くの展覧会を企画されました。その中で、数々の名作を日本に紹介することにも尽力されました。

いくつか例を挙げると、オルセー美術館開館前の1982年に、ミレーの「晩鐘」が日本で初公開された展覧会の開催に尽力されました。2003年には、ミレーの三大名画と言われる「晩鐘」、「落穂拾い」、「羊飼いの少女」が揃って来日しました。2014年には、東京で「オルセー美術館印象派の誕生」展が開催され、モネの「草上の昼食」がアジアで初公開されました。この展覧会では、マネの「笛を吹く少年」やモネの「サン＝ラザール駅」を始めとするオルセー美術館の傑作も展示されました。マチューさんが監修して日本で開催された展覧会の入場者数は、累計で500万人を超えます。マチューさんを始めとする美術館関係者の努力のおかげで、これだけ多くの日本人が、日本に居ながらにしてオルセー美術館の名画を目にすることができました。



« L'Angélus » Jean-François MILLET
ミレー「晩鐘」



« Des glaneuses »
Jean-François MILLET
ミレー「落穂拾い」

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

オルセー美術館が所蔵する傑作を積極的に日本に紹介し、日仏文化交流に貢献されたことを称えて、昨年日本政府はマチューさんに対して叙勲（旭日双光章）することを決定し、本年6月12日に叙勲伝達式を行いました。日本を愛し、60回以上も訪日したことがあるマチューさんに、日本政府として感謝を伝えました。



« Le Déjeuner sur l'herbe » Claude MONET
モネ「草上の昼食」

今年も日本ではオルセー美術館の展覧会が予定されています。多くの日本人が展覧会を訪れ、日本でまた新たなオルセー美術館のファンが生まれることでしょう。



« La Gare Saint-Lazare » Claude MONET
モネ「サン＝ラザール駅」

(*参考：2019年のオルセー美術館の入場者数は約365万人。内訳は、フランス人が44%で、フランス人以外が56%。日本はカナダ、オーストラリアと並ぶ7位で2%。出典：2019年オルセー美術館活動報告書)

